

平成30年度病害虫発生予報第7号

平成30年10月2日
愛知 県

普通作物

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	吸実性カメムシ類	少ない	県全域	9月下旬の発生量は少ない	—

・留意事項

9月下旬のイネにおけるヒメトビウンカのほ場調査での捕獲数は、平年よりも多くなっています。収穫後のひこばえは、ヒメトビウンカの生息場所になります。縞葉枯病はヒメトビウンカが発病株から病原ウイルスを保毒し、この保毒虫が次作の伝染源となります。次作の伝染源を増やさないために速やかに水田を耕起し、ひこばえを放置しないようにしましょう。

9月下旬のダイズにおける調査では、ハスモンヨトウの被害株率は平年並となっています。しかし、県内のほ場に設置したフェロモントラップでの誘殺数が平年よりも多い地域があり、今後、ほ場においても発生量が増加する可能性があります。そのため、ほ場全体を注意して見回り、発生を確認したら、8月3日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号」を参考に適宜防除を行いましょう。

また、本年は一部のダイズほ場でシロイチモジヨトウの寄生を確認しています。多くはハスモンヨトウと混在しており、被害状況での両種の区別は困難であるため、発生に注意しましょう。

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量は多い	± +
カキ	炭疽病	多い	県全域	9月下旬の発生量は多い 10月の降水量は多い	± +
カキ ウンシュウミカン	カメムシ類	多い	県全域	予察灯における誘殺数はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月下旬のカキにおける被害果率は高い	± ± +

・防除対策

[ナシ・黒星病]

本日発表の「ナシ黒星病情報第1号」を参考にしてください。

[カキ・炭疽病]

スコア顆粒水和剤、ナリアWDGなどで防除しましょう。

[カキ、ウンシュウミカン・カメムシ類]

9月14日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第5号」を参考にしてください。

・留意事項

ブドウべと病が発生しているほ場では、次作への伝染源量を減らすため、落葉を適切に処分するとともに、防除を実施しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	べと病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量は多い	± +
	コナガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
キャベツ	黒腐病	多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量は多い 強風を伴う降雨があった	± + +
	オオタバコガ	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キャベツ	コナガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は は平年並	±
	シロイチモジ ヨトウ	多い	県全域	9月下旬の発生量が多い フェロモントラップにおける誘殺数は 多い	+
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	コナジラミ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 10月の気温は高い	- +
	黄化葉巻病	少ない	県全域	9月下旬の発生量は少ない	-
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	炭疽病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 10月の気温は高い 10月の降水量は多い 強風を伴う降雨があった	- + + +
	ハダニ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は少ない 10月の気温は高い	- +
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	9月下旬のキャベツにおける発生量は並 フェロモントラップにおける誘殺数は やや多い	± +

・防除対策

[ハクサイ・ベと病]

シグナムWDGやランマンフロアブルなどで防除しましょう。

[ハクサイ、キャベツ・コナガ]

アファーム乳剤やフローバックDFなどで防除しましょう。

[キャベツ・黒腐病]

本日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

[キャベツ・シロイチモジヨトウ]

8月31日発表の「平成30年度病害虫発生予察注意報第4号」を参考にしてください。

[イチゴ・炭疽病]

発生株を見つけたら抜き取り、適切に処分しましょう。特に台風により雨水にさらされたほ場では発生に注意し、ベルコートフロアブルやセイビアーフロアブル20などで防除しましょう。

[野菜類・ハスモンヨトウ]

8月31日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参考にしてください。

・留意事項

台風により植物体の葉や地際部が損傷を受けた場合、その傷口から病原菌が侵入するた

め、病害が発生しやすくなります。アブラナ科野菜では黒腐病や軟腐病などの細菌による病害や、多湿によってまん延しやすいべと病などの発生量が多くなります。農薬は、植物体に付いた泥を洗い流すように地際部まで丁寧に散布しましょう。

害虫による食害痕は細菌による病害の発生を助長するので、害虫の発生がある場合は、殺虫剤も散布しましょう。

イチゴのハダニ類は多発すると防除が難しくなるので、発生初期に系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。訪花昆虫や天敵を利用する場合は影響日数に注意して薬剤を選定しましょう。

オオタバコガについては、8月3日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

気温の高い状態が続くと、アブラナ科野菜でハイマダラノメイガの発生が続くおそれがあります。今後の気温の推移とほ場での発生状況に注意して、防除を行いましょ。

花き

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
キク (露地)	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数はやや多い	+
	オオタバコガ	平年並	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	±

・防除対策

[キク・ハスモンヨトウ]

アニキ乳剤やマッチ乳剤などで防除しましょう。

・留意事項

オオタバコガは例年、10月に発生量が最も多くなります。着蕾期以降に食害を受けると被害が大きくなるので、早めの防除を心がけましょう。8月3日発表の「オオタバコガ情報第1号」を参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報(名古屋地方气象台9月27日発表)

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、多い確率60%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率60%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

[気温] 低い : 10% 平年並 : 40% 高い : 50%

[降水量] 少ない : 10% 平年並 : 30% 多い : 60%

[日照時間] 少ない : 40% 平年並 : 40% 多い : 20%